

1. めざす学校像

建学の精神	「人はみな神の氏子である」という金光教祖の広大かつ自然な教えにもとづき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う
教育理念	「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」教育の実践
教育スローガン	「文武両道の心豊かな人間を育む金光大阪」 <ul style="list-style-type: none">・ 文武両道の共学進学校として、地域から一定の評価を受けている現状から、さらに全教職員が組織的な努力を重ね、その評価を一層確固たるものにする。・ 日々の教育実践において学習指導、部活動指導を行うに先立ち、生徒指導の充実を図る。その実現のため、教職員は弛まない自己研鑽に努める。

2. 中期的目標

1. 次代を生き抜く確かな学力の育成 (1) 学習成果が、生徒一人ひとりの進路の展望につながる授業を推進する。 ア. 自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、日常の教科学習への興味・関心を高める。 イ. 学習意欲の高い生徒に対して、さらに学力を伸ばす工夫をするとともに、到達度の低い生徒に対して補習等を実施し、日々の授業がわかるものにしていく。 ウ. 授業だけでなく、自らの意志で創意工夫をしながら学び続ける姿勢を養う。 ※生徒アンケート教科学習に対する「興味・関心」、「授業理解」、「向上への意欲」の各肯定回答を順次引き上げ、平成 28 年度にはそれぞれ 80%以上にする。
2. 教員の自己研鑽の推進 (1) 各種研修を通して教員としての力量向上を図る。 ア. 校内および関西金光学園法人レベルでの研修や校外研修を通して、教員それぞれの指導力の向上を図る。 ※校外教員研修に原則全員の教員が参加し授業力向上に努め、平成 28 年度には生徒アンケート「授業の工夫」「教材の工夫」についての肯定回答を 85%以上にする。
3. 豊かな人間性の育成 (1) 互いの個性を認め、尊重しあい、一層安心できる学校生活を確立する。 建学の精神に基づき、教育の主軸として、「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」を掲げ、学校教育全般、とりわけ宗教情操教育を通じて、互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を作る。 ア. 全教員が生徒に対し、いじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題と考えさせ、その解決を目指す力を育成する。 イ. 集団の中での人格形成の場としての部活動、課外活動への積極的な参加をうながす。 ※平成 26 年度生徒アンケートの「差別問題を一人ひとりの問題」として捉えられている回答を 100%とし、それを維持する。また、新入生の部活動加入率を 80%以上としそれを維持していく。
4. 基本的生活習慣の確立 (1) 心身ともに生涯にわたって健やかに生きるための生活習慣を確立していく。 ア. 「生活習慣力」「時間管理力」「計画実行力」「経験活用力」を身につけさせる。 イ. 遅刻をなくし、欠席がちな生徒に対し手厚い指導を行う。 ※生徒アンケート「毎日予習復習をしている」生徒を平成 26 年度に 60%以上とし、平成 28 年度には 75% (3/4) 以上とする。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○教員による自己評価は年1回実施しており、より良い教育を提供できるよう教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すものである。</p> <p>【肯定意見が高かった項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の高い生徒に対して、さらに伸ばす工夫をしている。(100%) ・部活動の意義を重視し、より多くの生徒が活動できる体制を整えている。(97.5%) ・放縦な生活態度を認めず、服装や頭髪指導においても規範順守を求めており、ほぼ満足のいく状態にある。(98.8%) <p>【肯定意見が低かった項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外の研修に参加して、授業方法等について検討する機会を持っている。(88.9%) <p>【分析】</p> <p>生徒への指導面では多くの項目で教員は肯定的な意見を持っているのに対し、自己研鑽に係わる項目についてはポイントが低い。日常業務の多忙さもあるが、環境整備を図る必要がある。</p> <p>○生徒アンケートは年2回実施しており、授業担当者にとって授業を改善するデータとするとともに、生徒自身が授業への取組み方、学習状況を振り返るものである。</p> <p>【肯定意見が高かった項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の質問には、わかりやすくきちんと回答したか。中学 91.3% 高1 82.4% 高2 84.9% 高3 90.2% ・先生の授業に対する熱意、意欲を感じたか。 中学 87.1% 高1 79.1% 高2 82.1% 高3 88.5% <p>【肯定意見が低かった項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも予習と復習をきちんとしていたか。 中学 37.1% 高1 39.5% 高2 47.3% 高3 59.7% <p>【分析】</p> <p>教授法について生徒の受け止め方はどうしても主観が作用する。ある生徒にとっては「はい」と言える項目も、別の生徒にとっては「いいえ」であることがありえる。それゆえ、肯定意見100%はなかなか難しいが、90%は目指すべき値であると考え。「予習・復習」については「いつも」という言葉の解釈の差もあるが、もっと向上させる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに尊重しあう人間関係の基本である挨拶は、部活動生を中心によくできているが、全員ができているまでには至っていない。生徒全員が自発的に挨拶のできる雰囲気、学校づくりを目指してほしい。 ・教員の研修には予備校が実施する教員セミナーや授業参観の他、どういふものがあるか。機会があれば教えていただきたい。 ・授業の理解度が、学年が上がるにつれて高くなる傾向にあることは良いことである。今後も更なる向上を期待する。 ・予習・復習は勉強の基本である。毎日、全ての科目の予習・復習をすることは難しいと考えるが、全体的に更なる改善が必要ではないか。

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の 重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1. 次代を生き抜く確かな学力の育成</p>	<p>学習成果が、生徒一人ひとりの進路の展望につながる授業を推進する。</p> <p>ア. 確かな人生観・職業観に基づく学習への興味・関心の醸成。</p> <p>イ. 個々の学習状況に応じた指導の工夫。</p> <p>ウ. 自学自習の習慣の確立。</p>	<p>ア. 進路総合学習を各学期2～3回実施するとともに、学校教育活動全般に亘って、自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、日常の教科学習への興味・関心を高める。</p> <p>イ. 学習意欲の高い生徒に対して、早朝・放課後の進学講習を実施し、さらに学力を伸ばす指導の工夫をするとともに、到達度の低い生徒に対して考査前に補習を行い、日々の授業をわかるものにしていく。</p> <p>ウ. 授業だけでなく、自らの意志で創意工夫をしながら学び続ける姿勢を養うため、自習室をはじめ、校内での自学自習環境を整える。</p>	<p>ア. 生徒アンケート各教科に対する「興味・関心」の項目において肯定の回答が全教科平均75%以上（平成25年度67%）</p> <p>イ. 生徒アンケート「授業の理解」に関する項目の肯定回答が全教科平均80%以上（平成25年度77%）</p> <p>ウ. 生徒アンケート「向上への意欲」項目の肯定回答70%以上（平成25年度57%）</p>	<p>ア. 進路総合学習は年間計画通り実施でき、生徒が進路選択を考える上で有効に機能している。その結果として日々の学習への興味・関心に至っているのは高校3年生は69%→76%と目標値を達成できたが、全体では67%に止まっている。次年度は自らの進路設定と日々の学習が、より密接に連動するように、進路学習の場のみならず日常的に生徒への指導をしていく。（△）</p> <p>イ. 進学講習、考査前補習はほぼ計画通り実施。生徒の授業理解度も目標値80%には少し届かなかったが、昨年同様77%と概ね達成できた。次年度は特に到達度の低い生徒の補習期間等の見直しを図りたい。（○）</p> <p>ウ. 自習施設はコンスタントに生徒が活用しており、また、考査前などは席が足りなくなるなど積極的に学習に取り組む姿勢が見られる。しかし「向上への意欲」となると58%に止まっており、次年度は、自ら学ぶ姿勢の改善に努めたい。（△）</p>
<p>2. 教員の自己研鑽の推進</p>	<p>各種研修を通して教員としての力量向上を図る。</p> <p>ア. 指導力向上のための研修開催。</p> <p>イ. 教科教授法の多角的な研究の推進。</p>	<p>ア. 校内および関西金光学園法人レベルでの研修を年2回以上開催し、教員それぞれの指導力の向上を図る。</p> <p>イ. 公私各教育研究会（所）が実施する校外研修に積極的に参加し、教科教授法の多角的な研究を行いより質の高い授業を展開する。</p>	<p>ア. 生徒アンケート「授業の工夫」、「話し方の良否」、「教材の工夫」に関する項目の肯定回答それぞれ85%以上（平成25年度81%、83%、80%）</p> <p>イ. 教科教授法に関する校外研修への参加数、延べ30人以上。（平成25年度10人）</p>	<p>ア. 一校だけでは経費面等で開催が難しい講演者からの研修を受ける事ができ、その後の系列校教員間の話し合いも有意義なものとなった。さらなる深化を図りたい。到達目標を85%以上と高く設定しているため目標達成はできなかったが、各80%、82%、80%と概ね満足のいく結果である。次年度は、教師間参観等を取り入れ教授法のさらなるレベルアップを図り目標値を達成したい。（○）</p> <p>イ. 外部団体主催教員セミナーには延14人の教員が参加しその後の授業へのよきヒントを得られ有効であったが、参加教科、教員にやや偏りが見られた。次年度は研修参加者を増やすことと、参観者による校内報告会等を充実させたい。（△）</p>

<p>3. 豊かな人間性の育成</p>	<p>互いの個性を認め、尊重しあい、一層安心できる学校生活を確立する。</p> <p>ア. 人権意識の向上に向けた指導体制の整備</p> <p>イ. 部活動を通じての人格形成</p>	<p>建学の精神に基づき、教育の主軸として、「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」を掲げ、学校教育全般、とりわけ宗教情操教育を通じて、互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を作る。</p> <p>ア. 年度初めの人権教育推進委員会において生徒への指導計画を作成。また、毎週1回人権教育推進委員会をもち、教員が主体的に全学年の人権総合学習においていじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題と考えさせ、その解決を目指す生徒を育成する。</p> <p>イ. 部活動紹介、仮入部期間を設定し、仲間との連携、集団の中での個人の役割、重要性を学ぶ場としての部活動をはじめとする課外活動への積極的な参加を新入生にうながす。</p>	<p>ア. 生徒アンケートの「差別問題を一人ひとりの問題」と捉えられている回答 100%。 「教師への相談のしやすさ」についての肯定回答 80%以上 (平成 25 年度 77%)</p> <p>イ. 新入生部活動加入率 80%以上 (平成 25 年度 70%)</p>	<p>ア. 生徒アンケートから、人権問題、いじめ防止・根絶に向けて生徒の前向きな意見が見られ、教師からも「生徒が人権・いじめ問題に向き合う姿勢が成長した」との意見が出された。人権問題・いじめ問題を一人ひとりの問題と捉えられている生徒は 97%である。目標値の 100%にむけ継続的な指導に努めていきたい。(△)</p> <p>また、「教師への相談のしやすさ」は 78%で昨年度より微増し、概ね目標値に達した。生徒が些細なことでも相談できるよう、声かけ、雰囲気作りをさらに進めていきたい。(○)</p> <p>イ. 本校の部活動は、特に新入生において集団での連携、帰属意識の向上等、教育的に好ましい活動の場として機能している。その加入率は 82%に達し、目標値を上回った。次年度においても、入学当初の時点で部活動の有効性について積極的に伝えていきたい。(◎)</p>
<p>4. 基本的な生活習慣の確立</p>	<p>心身ともに生涯にわたって健やかに生きるための生活習慣を確立していく。</p> <p>ア. 自己管理能力向上にむけた取組</p> <p>イ. 基本的な生活習慣の確立</p>	<p>ア. 日々の行動、予定、目標を記した手帳(セルフ手帳)を活用し、「生活習慣力」「時間管理力」「計画実行力」「経験活用力」を身につけさせる。</p> <p>イ. 遅刻生徒にはその日の放課後に指導を行い、翌日 30 分前登校を促しその改善を確認する。また、欠席がちな生徒に対し、家庭訪問を含め、早期に家庭との連携、対応を図る。</p>	<p>ア. 生徒アンケート「予習復習を毎日していた」という回答 60%以上 (平成 25 年度 52%)</p> <p>イ. 遅刻数(通院等を除く) 対前年減少率 20%以上。(平成 25 年度 対前年減少率 17%)</p>	<p>ア. セルフ手帳は生徒に基本的な生活習慣を確立させる上で効果的で、ほぼ全員の教員が「生徒に対し必要な知識や行動力を身につけさせている」と感じている。それらを生徒の日々の学習(予習復習)の向上に反映させたいが、本年度も 49%と目標値を下回った。毎日の予習復習となると全員に求めるのは現実難しいが、次年度も 6 割以上達成できるよう、面談等を通じて学習活動の点検を行いたい。(△)</p> <p>イ. 遅刻数の対前年減少率±0%。近年遅刻と欠席に対する指導・対応が徹底され、その数は非常に少なく下げ止まり感があるが、次年度も引き続き個々の生活の振り返りと、その指導を徹底していきたい。(△)</p>